

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300129		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢青木 1F		
所在地	藤枝市青木2丁目15-5		
自己評価作成日	令和3年11月16日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;jiyosyoCd=2295300095-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;jiyosyoCd=2295300095-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にある「その人がその人らしく」、認知症の人ではなくその人自身を捉えた支援を大切にしています。利用者と職員が共に暮らすアットホームな施設です。同法人内の医療機関と密に連携し定期的な訪問診療や緊急受診にも対応しております。様々な形態の施設も設備しており利用者、ご家族が安心して過ごし対応ができる法人、施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時には「安心できる施設と一緒に作り上げていきたいので、家族の力を貸して下さい」と説明し、コロナ禍で面会制限が続く中、事業所通信に健勝な姿を掲載して知らせると共に毎月必ず電話で様子を伝え合い、家族と二人三脚で「第二の我が家」を形成しています。一昨年より地域代表の取り計らいから災害時一時集合場所が事業所前となり、避難所への移動に近隣住民の心強い協力体制が得られ、さらに「ひとり歩きが増えて行方不明となる恐れがある」「どんな福祉サービスがあるか知りたい」と悩みを抱えた家族の拠り所となる等、開設以来積み重ねて来た地域との相互関係も実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は全員で作った自設の理念を基に実践につなげる努力を行っている。	基本理念「その人がその人らしく、ゆったり、楽しく、気兼ねなく～」は各ユニットに掲示し、全職員が出席する毎月の職員会議ではまず、『実夢』に込められた思いと、理念が示す方向性を確かめ合い、ケアで戸惑った時の指標としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍という事もあり交流機会はあまりないが認知症対応型介護施設という事で地域の方に相談を受ける機会はある。	「ひとり歩きが増え、行方不明となる恐れがある」「どんな福祉サービスがあるか知りたい」と家族の介護について悩みを抱えた人が相談に来たり、電話での問い合わせがあったりと、開設10年を経て、困った時の「頼れる場所」にもなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を生かし地域の方から相談を受ける機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設でのサービスの取り組み状況の話し合いを行い、その時の意見、要望を取り入れサービス向上に生かしている。	感染対策を講じ、2階事務所を利用して短時間で運営推進会議を開催しています。市福祉政策課、民生委員、町内会長、自治会長が出席し、入居者状況や事故報告、写真を交えた活動報告を行い、人込みを避けて外出できる地域のスポット情報を教えてもらい活用しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議に必ず出席して頂き事業所の取り組み等の状況提供を行っている。市相談員にも来訪して頂き取り組んでいる。	コロナ禍で介護相談員の来所はありませんが、運営推進会議には毎回市福祉政策課職員の出席があります。ワクチン接種や感染状況等、リアルタイムで情報提供してもらえることで、より一層の緊張感を持って感染対策に臨んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。定期委員会、研修をし知識の習得や対応を話し合っている。	3ヶ月に一度、身体拘束虐待防止委員会を実施し、転倒の危険が高い利用者に対して行動を抑制しない声かけと環境の検討や、普段何気なく出てしまうスピーチロックには「動かないで」→「一緒に行くので待っていてもらえますか」など言葉の言い換えも学び合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について研修等で学び虐待の無いよう注意を払い拘束を含め定期的に話し合い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活支援事業の必要性がある場合活用に心がけており、成年後見人制度を活用している利用者を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は利用者、ご家族等に説明を行い理解、納得を頂いている。説明を受けたことの署名をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、要望を管理者、職員は理解し運営に反映させ、毎月「実夢タイムズ」という事業所便りを発行している。定期的に会議を実施し利用者や家族の声を法人内で話をし解決活用している。	面会は窓越しで予約制という制限はありますが、月に一度必ず電話で様子を伝え、懸念の声があがるADL低下については、散歩やラジオ体操、タオル体操、階段の昇降等、時間を決めて取組み、毎月発行する「実夢タイムズ」に健勝な姿を掲載して知らせています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は懇親会などを開き職員の意見、提案を聞き反映させている。管理者は職員と話しやすい雰囲気を作り意見や提案を出しやすい環境作りをしている。	年3回の個人面談で目標の進捗状況を確認するとともに、気になる事があれば都度声をかけ、直接管理者に言いにくいことは副主任を通すなど、会議以外の場でも一対一で話をする時間を作って職員意見に耳を傾けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの力量を把握し、研修の確保やトレーニングを行っている。職員個人で年間目標を作り自己研鑽に努めている。法人内で研修をし職員を育てる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の他施設と交流を図り、毎月の研修、勉強会に参加しサービスの質向上の取り組みを行っている。研修に参加し他事業所との意見交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に寄添って困っていること、不安、要望に向かい合い、本人の安心できる関係づくりをしている。認知症の人ではなく、その人の一部に認知症があるという事を意識しその人個人を捉える様に関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安、要望に添った話し合いを行い、ご家族が安心、納得できる様な関係作りに努めている。随時日々の様子を伝えご家族の安心を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の時点で子細なアセスメントを行い、適切な支援、サービス利用の提供に努めている。他業種とも連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努力をし、おおむねその関係になっている。グループホームという事で一緒に生活している同士という考えのもと実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族を支えながら協力を仰ぎ、共に利用者を支えることを心がけている。定期的に報告や面会の機会をつくり関係を途絶えさせない取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人、場所が途切れないでいる利用者もいるが上手く関係の継続が出来ていない人もおり様々である。コロナ禍ということもあり電話で話をされる利用者もおり、入所時の家族には関係作りの話をし気軽に電話等をしていただける開かれた施設を目指している	入居時は「安心できる施設を一緒に作り上げていきたいので、家族の力を貸して下さい」「気軽に電話を」と説明し、第二の我が家としての基盤作りに努めています。窓越し面会で元気な顔を合わせたり、所持する携帯電話の声を聞いてほっとしたり「居場所」で語らう光景があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、孤立せずにより良い関わり合いが出来るよう注視している。一人一人の性格を意識し職員が介入する事で関係作りにつとめている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係の継続に努め必要とされれば相談にのっている。実際に入院や他施設への移動後も経過を伺ったり、実際に会いに向いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式の一部を使い、本人の思いや希望、意向を把握し利用者中心のケアを提供する。	利用者担当職員が作成するセンター方式「私の姿と気持ちシート」には、本人の言葉と日頃の観察から気づきが記載され、モニタリングごとに新たな情報が加筆されています。「一人ひとりに関わりたい」と一緒にお茶を飲んだり、寝る前のんびりした時間を有効利用しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族の協力を得てフェイスシート、アセスメントシートに適切な情報を多く入れ、職員の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日常に一人一人の心身状態や日々の様子の変化に気を付け、把握に心がけている。その日に起こった事や些細な変化の情報共有に努めている。医療とも連携し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画の作成に努めている。ケアプラン作成時にはケア連絡表からの情報やケア会議で職員より意見を聞き取りモニタリングに反映している。	計画作成担当をユニットに一名ずつ配置し、毎月の職員会議で利用者担当を中心に意見交換を行い、現場の方針を統一して、介護支援専門員、計画作成担当者、管理者が再度話し合いをし書面化しています。モニタリングでは短期目標の達成状況を職員と一緒に見極めていきます。	感染症終息後には家族を含めたサービス担当者会議で、よりよい介護計画が作成されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を支援経過表やケア連絡表に記入し、ケアプランの見直しに生かしている。また医療と密に連携をとり反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応した柔軟なサービス提供に心がけ、多様化に向けて取り組めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を上手に活用できるように心掛け外出等している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、主治医との連携をとり医療連携をとり良い関係を築いて適切な医療を受けられている。訪問診療を開始した。	月2回の訪問診療と、24時間連絡が取れる母体病院が協力医となり、全員が変更しています。病院看護師との情報共有も確実で、すぐに指示を仰げる安心の医療体制となっています。診療には管理者・職員が立ち会い、支援経過に記録しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はバイタル計測し日々の変化、体調などの気づきに対し看護師と相談し適切な看護や受診が行えている。24時間オンコールできる体制もある。病院に直接電話し主治医や病院看護師と情報共有、また救急救命士同乗し搬送する体制もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関は同法人内にもあり医療連携をしている。入院時を含め病院との連絡、情報の提供は密にとれており、良い関係を築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して、入所時にご家族、ご本人と話し施設で出来る事の説明を行っている。法人本部の病院関係者との関係づくりは出来ている。	契約時には「利用者の重度化した場合の対応に係る指針」に沿って説明し、同意書を交わしています。医療行為を伴ったり、介助でも食事が摂れない状態では難しいとして、母体病院や介護施設への入院・入所等、本人・家族にとって最善の方法を話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備し迅速な対応ができるよう心掛けている。法人内で研修も開かれており参加し実践力を見に付ける取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の非常用避難スロープを製作したうえで年2回の定期的な訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。運営推進会議等でも議題にあげ話している。	夜間想定を含め、年2回の風水害、地震等災害に対処する避難訓練を滞りなく実行しています。一昨年より地域代表の取り計らいから一時集合場所が事業所前となり、避難場所となっている小学校への移動に近隣住民の心強い協力体制が得られています。	地域防災訓練再開を機に、近隣住民との連携を通してさらに相互理解が深められることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。認知症の理解も必要である、その人らしさ、個人を捉えた対応をする様に努めている。	居室で過ごす時間を大切にしたい人にはレク等無理強いせず、安全確認をしながらも扉を閉め、個の空間を保障できるようにしています。「ケアや安全確保が優先して利用者の気分を害していないか」と会議ごとに自身の介護を立ち返っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や思いを聞き取り、本人の意思に沿った支援を行っている。自分の思いを認知症の為声として表出する事が困難な人もいる。その人の姿、行動から察し気付くという事を職員は大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	効率ばかりにとらわれずその人のニーズを常に考え職員都合になってしまわないように日々その人らしい暮らしの支援を心がけている。日々話をすること		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の服を選んでもらいその人らしいおしゃれの支援を行っている。整容にも気遣い、身だしなみにも気を配るよう支援をしている。化粧等入居以前にしていた事も継続し行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの食事の好みを把握し、食事の楽しみの提供、配膳、食器洗い等、職員と共に行っている。家で行っていたことを引き続き行っていただき認知症の進行やADLの低下を予防している。	「家庭的な調理を大切にしたい」と手作りの食事に力を入れ、利用者の有する力が発揮されています。本部管理栄養士監修の献立を参考に、「つみれを入れたお吸い物」「卵焼き」「目玉焼き」「お刺身」などのリクエストを取り入れ、誕生日には「お寿司」が人気を独占しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量に気を配り、本人の摂取しやすい食事形態の提供を行っている。好みの把握を対応している。定期的に血液検査等を実施し状態の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各利用者に合わせた口腔ケアを行い口腔内の清潔を図っている。臥床時には入歯を洗浄剤に浸け清潔を保っている。市との研修座学実践口腔ケア技術向上事業にも参加した経験を活かし活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツ使用の無いように支援し、個人に合った排泄方法やトイレ誘導時間を設定している。また、相手の自尊心を傷つけない声掛け、対応に配慮している。本人の排泄リズムが把握できるように排泄表で確認している。	認知症の周辺症状が落ち着くことで排泄の失敗がなくなったり、排泄表から尿量、便秘をチェックして体の変調に気づいたり、本人が発信できない「声なき声」に着目しています。オムツだった人もタイミングを見計らった声かけで、排泄の訴えがはっきりできるようになっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘予防に気を配り飲食物の工夫や適度な運動を取り入れ活動性向上を実施している。必要により医師に相談し指示をもらい薬での対応をしている。薬も調整をして適切な本人の苦痛でない排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて日のあかない様調整をして温度、入浴時間を適切に管理し楽しく入浴ができるよう支援している。利用者の要望に応え入浴剤や足湯の活用等様々実施している。	週に3回をめやすとして、浮腫み解消や寒い夜には足湯も支度しています。柚子やバラの香りの入浴剤を用意し、浴室前の立て看板に「本日のお湯は～」と出せば「ちょっと行ってみようか」と誘い寄せられ、清潔だけでなく気持ちがほぐれることへの工夫が光ります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて休息や夜間睡眠が良いものとなる様、各利用者に合わせて支援している。また中には自身で伝えられない利用者もあり、日々の様子から職員間で情報共有し個人に合わせた休息時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方薬の目的を理解して服薬後の症状の変化に注意している。場合によっては医師や薬剤師に相談をして調整変更中止を行って。処方薬を各利用者でまとめ職員が直ぐに把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりに合わせたレクリエーションなどの楽しみや居心地の良い場の提供を心がけて支援している。家でしていた事の延長をなるべく施設でも出来る取り組みを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍という事もあり困難ではあるが、一人ひとりの気分転換をはかるため外に出る機会はつくり対応している。	午後2時～3時はレクの時間と定め、2～3人ずつ散歩に出ています。要望に応じて桜の名所めぐりや静岡空港など降りないドライブへ出かけ、「自宅へ行きたいけど今は行けない。でも一目会いたい」と事前連絡して車を走らせ、車窓越しで手を振って戻って来たという例もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金(小銭)の所持をされている入居者もあり、希望や能力に応じてお金の使用ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には自由な電話の使用を支援し、手紙のやり取りも自由に行っている。文通をしている利用者や遠方の家族、友達とも電話をしたりかかってきたりと繋がりを継続するように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快なモノ、混乱を招くようなモノを置かないようにしている。季節を感じられるよう時節に合った飾り物、花を植栽し楽しんでいる。	玄関先のブランター、生け花や壁面制作で四季を知らせ、果物や野菜は一緒に下ごしらえをしながら旬を楽しんでいます。法人の感染対策マニュアルに従いテーブルや手すりは毎食後消毒し、目が行き届かなかった冷蔵庫やエアコンもこまめに清掃して感染対策を徹底しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれたり、気の合った仲間が過ごせるような居場所の工夫をしている。安心感や自分の居場所を見つけてもらうよう見守りケアをしている。初めは職員が介入しコミュニケーションをとり関係作りをしその人同士の繋がりをつくる支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談をして本人の使い慣れたものや好みのものを置き、落ち着いて過ごしやすい空間作りをしていただいている。安心できる場所、自分の居場所という認識を持っていただくように支援している。	居心地よく過ごせるよう、入居の際は「馴染みあるものや大切にしていたものを一つ持って来て下さい」と伝えていきます。持参した位牌と遺影に毎日水を手向けて拝む人、働き盛りのころ仕事で愛用していた鞆など、その人らしさが詰められた居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ安全かつ自由で快適な生活ができるよう心掛けている。できることとしていることの把握を職員間で話をし、過介助とならないようにケア会議で話をし援助している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295300129		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢青木 2F		
所在地	藤枝市青木2丁目15-5		
自己評価作成日	令和3年11月16日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;jiyosyoCd=2295300095-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;jiyosyoCd=2295300095-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

基本理念にある「その人がその人らしく」、認知症の人ではなくその人自身を捉えた支援を大切にしています。利用者と職員が共に暮らすアットホームな施設です。同法人内の医療機関と密に連携し定期的な訪問診療や緊急受診にも対応しております。様々な形態の施設も設備しており利用者、ご家族が安心して過ごし対応ができる法人、施設です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

入居時には「安心できる施設と一緒に作り上げていきたいので、家族の力を貸して下さい」と説明し、コロナ禍で面会制限が続く中、事業所通信に健勝な姿を掲載して知らせると共に、毎月必ず電話で様子を伝え合い、家族と二人三脚で「第二の我が家」を形成しています。一昨年より地域代表の取り計らいから災害時一時集合場所が事業所前となり、避難所への移動に近隣住民の心強い協力体制が得られ、さらに「ひとり歩きが増えて行方不明となる恐れがある」「どんな福祉サービスがあるか知りたい」と悩みを抱えた家族の拠り所となる等、開設以来積み重ねて来た地域との相互関係も実っています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は全員で作った自設の理念を基に実践につなげる努力を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍という事もあり交流機会はあまりないが認知症対応型介護施設という事で地域の方に相談を受ける機会はある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を生かし地域の方から相談を受ける機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設でのサービスの取り組み状況の話し合いを行い、その時の意見、要望を取り入れサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議に必ず出席して頂き事業所の取り組み等の状況提供を行っている。市相談員にも来訪して頂き取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。定期委員会、研修をし知識の習得や対応を話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について研修等で学び虐待の無いよう注意を払い拘束を含め定期的に話し合い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活支援事業の必要性がある場合活用に心がけており、成年後見人制度を活用している利用者を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は利用者、ご家族等に説明を行い理解、納得を頂いている。説明を受けたことの署名をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、要望を管理者、職員は理解し運営に反映させ、毎月「実夢タイムズ」という事業所便りを発行している。定期的に会議を実施し利用者や家族の声を法人内で話し解決活用している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は懇親会などを開き職員の意見、提案を聞き反映させている。管理者は職員と話しやすい雰囲気を作り意見や提案を出しやすい環境作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの力量を把握し、研修の確保やトレーニングを行っている。職員個人で年間目標を作り自己研鑽に努めている。法人内で研修をし職員を育てる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の他施設と交流を図り、毎月の研修、勉強会に参加しサービスの質向上の取り組みを行っている。研修に参加し他事業所との意見交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に寄添って困っていること、不安、要望に向かい合い、本人の安心できる関係づくりをしている。認知症の人ではなく、その人の一部に認知症があるという事を意識しその人個人を捉える様に関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安、要望に添った話し合いを行い、ご家族が安心、納得できる様な関係作りに努めている。随時日々の様子を伝えご家族の安心を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の時点で子細なアセスメントを行い、適切な支援、サービス利用の提供に努めている。他業種とも連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努力をし、おおむねその関係になっている。グループホームという事で一緒に生活している同士という考えのもと実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族を支えながら協力を仰ぎ、共に利用者を支えることを心がけている。定期的に報告や面会の機会をつくり関係を途絶えさせない取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人、場所が途切れないでいる利用者もいるが上手く関係の継続が出来ていない人もおり様々である。コロナ禍ということもあり電話で話をされる利用者もおり、入所時の家族には関係作りの話をし気軽に電話等をしていただける開かれた施設を目指している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、孤立せずにより良い関わり合いが出来るよう注視している。一人一人の性格を意識し職員が介入する事で関係作りにつとめている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係の継続に努め必要とされれば相談にのっている。実際に入院や他施設への移動後も経過を伺ったり、実際に会いに出向いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式の一部を使い、本人の思いや希望、意向を把握し利用者中心のケアを提供する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族の協力を得てフェイスシート、アセスメントシートに適切な情報を多く入れ、職員の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日常に一人一人の心身状態や日々の様子の変化に気を付け、把握に心がけている。その日に起こった事や些細な変化の情報共有に努めている。医療とも連携し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画の作成に努めている。ケアプラン作成時にはケア連絡表からの情報やケア会議で職員より意見を聞き取りモニタリングに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を支援経過表やケア連絡表に記入し、ケアプランの見直しに生かしている。また医療と密に連携をとり反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応した柔軟なサービス提供に心がけ、多様化に向けて取り組めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を上手に活用できるように心掛け外出等している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、主治医との連携をとり医療連携をとり良い関係を築いて適切な医療を受けられている。訪問診療を開始した。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はバイタル計測し日々の変化、体調などの気づきに対し看護師と相談し適切な看護や受診が行えている。24時間オンコールできる体制もある。病院に直接電話し主治医や病院看護師と情報共有、また救急救命士同乗し搬送する体制もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関は同法人内にもあり医療連携をしている。入院時を含め病院との連絡、情報の提供は密にとれており、良い関係を築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して、入所時にご家族、ご本人と話し施設で出来る事の説明を行っている。法人本部の病院関係者との関係づくりは出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備し迅速な対応ができるよう心掛けている。法人内で研修も開かれており参加し実践力を見に付ける取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の非常用避難スロープを製作したうえで年2回の定期的な訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。運営推進会議等でも議題にあげ話をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。認知症の理解も必要である、その人らしさ、個人を捉えた対応をする様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や思いを聞き取り、本人の意思に沿った支援を行っている。自分の思いを認知症の為声として表出する事が困難な人もいる。その人の姿、行動から察し気付くという事を職員は大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	効率ばかりにとられずその人のニーズを常に考え職員都合になってしまわないように日々その人らしい暮らしの支援を心がけている。日々話をする事で		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の服を選んでもらいその人らしいおしゃれの支援を行っている。整容にも気遣い、身だしなみにも気を配るよう支援をしている。化粧等入居以前にしていた事も継続し行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの食事の好みを把握し、食事の楽しみの提供、配膳、食器洗い等、職員と共に行っている。家で行っていただけ認知症の進行やADLの低下を予防している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量に気を配り、本人の摂取しやすい食事形態の提供を行っている。好みの把握を対応している。定期的に血液検査等を実施し状態の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各利用者に合わせた口腔ケアを行い口腔内の清潔を図っている。臥床時には入歯を洗浄剤に浸け清潔を保っている。市との研修座学実践口腔ケア技術向上事業にも参加した経験を活かし活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツ使用の無いように支援し、個人に合った排泄方法やトイレ誘導時間を設定している。また、相手の自尊心を傷つけない声掛け、対応に配慮している。本人の排泄リズムが把握できるように排泄表で確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘予防に気を配り飲食物の工夫や適度な運動を取り入れ活動性向上を実施している。必要により医師に相談し指示をもらい薬での対応をしている。薬も調整をして適切な本人の苦痛でない排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて日のあかない様調整をして温度、入浴時間を適切に管理し楽しく入浴ができるよう支援している。利用者の要望に応え入浴剤や足湯の活用等様々実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて休息や夜間睡眠が良いものとなる様、各利用者に合わせて支援している。また中には自身で伝えられない利用者もあり、日々の様子から職員間で情報共有し個人に合わせた休息時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方薬の目的を理解して服薬後の症状の変化に注意している。場合によっては医師や薬剤師に相談をして調整変更中止を行って。処方薬を各利用者でまとめ職員が直ぐに把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりに合わせたレクリエーションなどの楽しみや居心地の良い場の提供を心がけて支援している。家でしていた事の延長をなるべく施設でも出来る取り組みを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍という事もあり困難ではあるが、一人ひとりの気分転換をはかるため外に出る機会はつくり対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金(小銭)の所持をされている入居者もあり、希望や能力に応じてお金の使用ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には自由な電話の使用を支援し、手紙のやり取りも自由に行っている。文通をしている利用者や遠方の家族、友達とも電話をしたりかかってきたりと繋がりを継続するように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快なモノ、混乱を招くようなモノを置かないようにしている。季節を感じられるよう時節に合った飾り物、花を植栽し楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれたり、気の合った仲間が過ごせるような居場所の工夫をしている。安心感や自分の居場所を見つけてもらうよう見守りケアをしている。初めは職員が介入しコミュニケーションをとり関係作りをしその人同士の繋がりをつくる支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談をして本人の使い慣れたものや好みのものを置き、落ち着いて過ごしやすい空間作りをしていただいている。安心できる場所、自分の居場所という認識を持っていただくように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ安全かつ自由に快適な生活ができるよう心掛けている。できることとしていることの把握を職員間で話し、過介助とならないようにケア会議で話し援助している。		